

## 付録C トラブルシューティング

本章では、障害発生時に確認して頂きたい事項について説明します。本章に記述されている事項を確認しても、現象が解決されない場合、問い合わせ先に補足情報として以下のファイルを送付願います。

$\$(ESMPROCM)$  は、ClientManager をインストールしたディレクトリです。デフォルトでは、

C:\Program Files\ESMPRO\ESMPROCM

または、

A:\Program Files\ESMPRO\ESMPROCM

の様になります。

### ■ マネージャ

- ・  $\$(ESMPROCM)\Log$  ディレクトリ配下の拡張子が.log および.lo\_のファイルすべて。
- ・ アラートビューアのログをセーブしたファイル。

### ■ 中継エージェント

- ・  $\$(ESMPROCM)\Log$  ディレクトリ配下の拡張子が.log および.lo\_のファイルすべて。

### ■ クライアント

#### Windows NT 3.51 の場合

- ・  $\$(ESMPROCM)\Log\Local$  ディレクトリ配下の拡張子が.log および.lo\_のファイルすべて。
- ・  $\$(ESMPROCM)\Inf$  ディレクトリ配下の拡張子が.dat のファイルすべて。
- ・  $\$(ESMPROCM)\Inf\Inv$  ディレクトリ配下の拡張子が.dat のファイルすべて。

#### Windows NT 3.51 以外の場合

- ・  $\$(ESMPROCM)\BIN\CMAR.EXE$  を実行した後の、 $\$(ESMPROCM)\LOG\CMLog1.CAB$  ファイル。

■ マネージャ・クライアント・中継エージェント共通

- ワトソン博士のログ。Windows 2000、Windows NT の場合には、Windows をインストールしたディレクトリの drwtsn32.log ファイル。Windows 98 の場合には、WATSON.xx.WLG (xx は番号)ファイル。
- Windows NT の場合にはイベントログ。
- どのような操作したときにおきたのか等の操作手順。
- ハードウェア・OS の情報。

例：

サーバ H/W: Express5800 120Ha

CPU: Pentium III Xenon 550MHz 2 個

Memory: 512Mbyte

OS: Windows 2000 Advanced Server SP1

データベース: SQL Server 2000 SP1

ODBC ドライバ: 3.80.001

Web サーバ: IIS 5.0

クライアント H/W: PC98-NX PC-MA450DHEBNCD3

CPU: Pentium III 450MHz

Memory: 64Mbyte

OS: Windows98 SP1

Web ブラウザ: インターネットエクスプローラ 4.01SP2

## C.1 展開時/運用時

### C.1.1 自動発見が行えない

ESMPRO 統合ビューアから ClientManager のクライアントとして自動発見が行えない場合や、には、以下のことが考えられます。

#### ■ 要因（クライアントの状態は 21 かそれより大きい）

ServerAgent をインストールしたコンピュータに CM クライアントをインストールした。

#### ■ 確認事項

オペレーションウィンドウで自動発見をするときのパラメータで CM クライアントのみを指定したか？

#### ■ 確認方法

ClientManager と ServerManager や Netvisor を共存させている場合に、自動発見を行う場合には、CM クライアントに限定して自動発見を行います。

オペレーションウィンドウ[ツール]-[自動発見]-[手動起動]-[TCP/IP ホストの発見]で「自動発見(TCP/IP ホスト)」ダイアログを表示します。「自動発見(TCP/IP ホスト)」ダイアログの<詳細>ボタンを押し「自動発見の詳細設定」ダイアログを開きます。「自動発見の詳細設定」ダイアログの「再度発見した場合に属性を変更する」と「CM クライアント」にチェックをつけて<OK>ボタンを押し、「自動発見の詳細設定」ダイアログを閉じます。「自動発見(TCP/IP ホスト)」ダイアログの<開始>ボタンを押して自動発見を行います。

#### ■ 要因（クライアントの状態は 10）

他の他のアプリケーションプログラム(McAfee 等)の影響で正しく SNMP エージェントがインストールできていない。

#### ■ 確認事項

ClientManager セットアップカードまたはマニュアルに記載された手順で SNMP をインストールしていますか？

#### ■ 確認方法

レジストリエディタ (regedit.exe) で以下のキーに値が存在するか確認してください。

キー:

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥

SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SNMP¥Parameters¥ExtensionAgents

値名:

数字

値:

SOFTWARE¥Microsoft¥RFC1156Agent¥CurrentVersion

この値がない場合には、Windows の SNMP の再インストールが必要です。

再インストール後、CM クライアントをインストールしたディレクトリの BIN ディレクトリの下にある CMCLCTRL.EXE に /SetReg:SNMP の引数を付けて実行してください。CM クライアントのセットアップが SNMP に登録した内容を復旧します。

## ■ 要因 (クライアントの状態は 10 または 21)

SNMP サービスをインストールした後に、サービスパックを再度適用していない。

## ■ 確認事項

SNMP サービスをインストールした後に、サービスパックを再度適用したか確認する。

Windows NT のサービスパックは SNMP サービスを置き換えます。

## ■ 対応方法

クライアント側で再度サービスパックを適用します。

## ■ 要因 (クライアントの状態は 10 または 21)

Hewlett-Packard 社の OpenView などの Windows の SNMP を置き換えるアプリケーションがクライアントにインストールされている。

## ■ 確認事項

インストールしているソフトウェアのマニュアル、リリースメモ、リリースノート、セットアップカード等で SNMP が OS の標準のものと置き換える記述がないか。

## ■ 対応方法

インストールしているソフトウェアのマニュアル、リリースメモ、リリースノート、セットアップカード等で SNMP が OS の標準のものと置き換える記述がないか確認する。置き換える事がかかっている場合に、そのソフトウェアが置き換えた SNMP の設定方法を調べ、コミュニティの設定を行う。

### HP OpenView Network Node Manager:

Network Node Manager の%OV\_MAIN\_PATH%\conf\SNMPAgent\snmp.conf ファイルの get-community-name、set-community-name、trap-dest を設定します。%OV\_MAIN\_PATH% は、Network Node Manager のインストールディレクトリです。

例 :

```
get-community-name:    public
set-community-name:    public
trap-dest:             10.0.0.1
```

## C.1.2 CM データビューアが起動しない (統合ビューアから)

統合ビューアに ClientManager のアイコンが登録された状態で CM データビューアの起動が行えない場合、その原因としては以下のことが考えられます。

なお、アイコンを選択した状態で右クリックして表示されるポップアップメニューに、CM データビューアの項目が出ない場合には、「C.1.1 自動発見が行えない」も参照してください。

### ■ 要因

統合ビューアに既にアイコンが登録されている。

### ■ 確認事項

オペレーションウィンドウで自動発見をするときのパラメータで「再度発見した場合に属性を変更する」を指定したか？

### ■ 対応方法

オペレーションウィンドウ[ツール]-[自動発見]-[手動起動]-[TCP/IP ホストの発見]で「自動発見(TCP/IP ホスト)」ダイアログを表示します。「自動発見(TCP/IP ホスト)」ダイアログの<詳細>ボタンを押し「自動発見の詳細設定」ダイアログを開きます。「自動発見の詳細設定」ダイアログの「再度発見した場合に属性を変更する」と「CM クライアント」にチェックをつけて<OK>ボタンを押し、「自動発見の詳細設定」ダイアログを閉じます。「自動発見(TCP/IP ホスト)」ダイアログの<開始>ボタンを押しして自動発見を行います。

## ■ 要因

別の CM マネージャ配下のクライアントである。

## ■ 確認事項

オペレーションウィンドウのアイコンのプロパティでクライアント管理 ID を確認する。

## ■ 確認方法

オペレーションウィンドウでアイコンを選択してクライアント管理 ID を表示します。クライアント管理 ID の先頭 3 文字がマネージャ ID になります。このマネージャ ID が自マネージャのものか確認します。階層化した場合の親マネージャでない場合には接続したマネージャにデータがないため表示が行われません。

## ■ 要因

利用する CM マネージャの設定が間違っている。

## ■ 確認事項

CM GUI を ServerManager や Netvisor の統合ビューアに連携させている場合に、CM マネージャの設定が間違っていないか。

## ■ 対応方法

### CM 3.3 までの場合

CM GUI をインストールしたディレクトリ(例： C:¥Program Files¥ESMPRO¥ESMPROCM)の下の GUISETUP.EXE を実行してマネージャを設定します。

### CM 3.4 およびそれ以降の場合

CM GUI をインストールしたディレクトリ(例： C:¥Program Files¥ESMPRO¥ESMPROCM)の下の BIN ディレクトリ配下に格納されている CMSETDST.EXE を実行して、接続先マネージャ名を設定します。

## C.1.3 CM データビューアにコンピュータ名のみ表示

CM データビューアを起動した場合にコンピュータ名のみ見える場合、CM クライアントの情報が CM マネージャに通知されていない事が考えられます。その原因としては以下のことが考えられます。

### ■ 要因

構成情報がデータベース(DB)に格納されていない。

### ■ 確認事項

アラートビューアの概要に対象となる CM クライアントから「CM クライアントセットアップ完了」というアラートが通知されていますか？

### ■ 確認方法

マネージャでの確認方法：

CM マネージャマシン上にあるアラートビューアにて確認してください。

クライアントでの確認方法：

CM クライアントをインストールしたディレクトリの BIN ディレクトリにある CMCDISP.EXE を実行して、state の表示が 41 以上か確認する。

### ■ 要因（クライアントの状態は 41 より小さい）

CM クライアントのバージョンが Ver3.5 以前の場合、CM クライアントの SNMP エージェントの設定が正しくない。

### ■ 確認事項

SNMP Trap の送信先が正しくマネージャマシンに設定されていますか？

例(1) 打ち間違い

10.10.10.10

10.10.1010

10.10.10.10

例(2)名前の解決ができない

DNS への登録がない

WINS への登録がない

HOSTS への登録がない

例(3)他のマシンのアドレスを設定

## ■ 確認方法

クライアントが **Windows 2000** の場合：

「コントロールパネル」－「ネットワーク」－「管理ツール」－「サービス」－「SNMP」－「トラップ」で確認してください。

クライアントが **Windows NT 4.0** の場合：

「コントロールパネル」－「ネットワーク」－「サービス」－「SNMP サービス」－「トラップ」で確認してください。

クライアントが **Windows NT 3.51** の場合：

「コントロールパネル」－「ネットワークアイコン」－「ネットワークの設定」－「組み込まれているネットワークソフトウェア」－「SNMP サービス」－<構成>－「SNMP サービスの構成」－「トラップとともに送信するコミュニティ名」

クライアントが **Windows 95 / 98** の場合：

「スタート」－「プログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムポリシーエディタ」で確認してください。

## ■ 要因（クライアントの状態は 41 かそれより大きい）

別の CM マネージャ配下のクライアントである。

## ■ 確認事項

オペレーションウィンドウのアイコンのプロパティでクライアント管理 ID を確認する。

## ■ 確認方法

オペレーションウィンドウでアイコンを選択してクライアント管理 ID を表示します。クライアント管理 ID の先頭 3 文字がマネージャ ID になります。このマネージャ ID が自マネージャのものか確認します。階層化した場合の親マネージャでない場合には接続したマネージャにデータがないため表示が行われません。

## ■ 要因（クライアントの状態は 41 より小さい）

CM クライアントのバージョンが **Ver3.5** 以前の場合、他のアプリケーションプログラム(McAfee 等)の影響で正しく SNMP エージェントがインストールできていない。

## ■ 確認事項

ClientManager セットアップカードに記載された手順で SNMP をインストールしていますか？

## ■ 確認方法

レジストリエディタ (regedit.exe) で以下のキーに値が存在するか確認してください。

キー:

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SNMP¥Parameters¥  
ExtensionAgents

値名:

数字

SOFTWARE¥Microsoft¥RFC1156Agent¥CurrentVersion

この値がない場合には、SNMPの再インストールが必要です。

再インストール後、CMクライアントをインストールしたディレクトリのBINディレクトリ  
の下にあるCMCLCTRL.EXEに/SetReg:SNMPの引数を付けて実行してください。CMク  
ライアントのセットアップがSNMPに登録した内容を復旧します。

## ■ 要因 (クライアントの状態は 41 より小さい)

CMクライアントのバージョンが Ver3.5 以前の場合、Hewlett-Packard 社の OpenView などの Windows の SNMP を置き換えるアプリケーションがクライアントにインストールされている。

## ■ 確認事項

インストールしているソフトウェアのマニュアル、リリースメモ、リリースノート、セットアップカード等で SNMP が OS の標準のものと置き換える記述がないか。

## ■ 対応方法

インストールしているソフトウェアのマニュアル、リリースメモ、リリースノート、セットアップカード等で SNMP が OS の標準のものと置き換える記述がないか確認する。置き換える事がかかっている場合に、そのソフトウェアが置き換えた SNMP の設定方法を調べ、コミュニティの設定を行う。

### HP OpenView Network Node Manager:

Network Node Manager の %OV\_MAIN\_PATH%\conf¥SNMPAgent¥snmp.conf ファイルの get-community-name、set-community-name、trap-dest を設定します。%OV\_MAIN\_PATH%\ は、Network Node Manager のインストールディレクトリです。

例:

get-community-name:     **public**  
set-community-name:     **public**  
trap-dest:               **10.0.0.1**

## ■ 要因（クライアントの状態は 41 より小さい）

Windows のシェル(Explorer)を独自のものに置き換えていて、プログラムの自動実行をサポートしていない。

### ■ 確認事項

Windows のシェルをエクスプローラ以外に置き換えていないか？

### ■ 確認方法

シェルをエクスプローラ以外に置き換えている場合には Windows の以下のレジストリとスタートアップグループに登録されているすべてのコマンドを実行する。

キー:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥CurrentVersion¥Run
```

## ■ 要因（クライアントの状態は 41 より小さい）

CM クライアントのバージョンが Ver3.50 以前の場合、CM クライアントのアドレスが NAT で変換されている。

### ■ 確認事項

NAT を利用していないか確認する。

### ■ 確認方法

NAT には対応しておりません。

## C.1.4 電源投入が行えない

電源投入コマンドと CM データビューアあるいは CM 管理ツールから実行し、クライアントマシンの電源が投入できない場合、以下のことが考えられます。

### ■ 要因

クライアント PC の設定を行っていない。

### ■ 確認事項

BIOS で Wake on LAN(Remote Power On)の ON / OFF の選択がある機種では、その設定で許可する設定になっているか？

### ■ 確認方法

BIOS の設定(Wake on LAN, Remote Wake-up 等の項目名)を確認する。許可されていない場合にはハードウェア添付のマニュアルを参照し、許可を行ってください。

クライアントが PC-98NX の場合(1):

BIOS 設定メニューの「起動(boot)」－「PCI デバイスによる電源オン(On PME)」が「しない」(“Stay off”)の場合には、「する」(“Power On”)に変更する。

「省電力(Power)」－「モデムリングによるレジューム(Resume On Modem Ring)」が「オフ」(“Off”)の場合には、「オン」(“On”)に変更する。

**注意:** BIOS をバージョンアップした場合には、再設定してください。

**注意:** BIOS 設定を初期化した場合には、再設定してください。

**注意:** 機種によってメニューが異なる場合や、BIOS のメニューに項目があってもその機種でサポートされていない場合があります。また、その他に設定が必要になる場合があります。**必ずハードウェア添付のハードウェア活用ガイドを参照してください。**

クライアントが PC-98NX の場合(2):

BIOS 設定メニューの「省電力(Power)」－「PCI デバイスによる電源オン(On PME)」が「しない」(“Stay off”)の場合には、「する」(“Power On”)に変更する。

「省電力(Power)」－「モデムリングによるレジューム(Resume On Modem Ring)」が「オフ」(“Off”)の場合には、「オン」(“On”)に変更する。

**注意:** BIOS をバージョンアップした場合には、再設定してください。

**注意:** BIOS 設定を初期化した場合には、再設定してください。

**注意:** 機種によってメニューが異なる場合や BIOS のメニューに項目があってもその機種でサポートされていない場合があります。また、その他に設定が必要になる場合があります。**必ずハードウェア添付のハードウェア活用ガイドを参照してください。**

クライアントがExpress 5800 の場合 <BIOSでの設定>:

[Hardware メニュー]－[Wake On Event]－[Wake On Lan:(Enabled/Disabled)] が“Disabled” の場合には、“Enabled” にメニューが変更する。

**注意:** 機種によって異なる場合や、BIOS のメニューに項目があってもその機種でサポートされていない場合があります。また、その他に設定が必要になる場合があります。**必ずハードウェア添付のユーザーズガイドを参照してください。**

クライアントが AMI BIOS場合 <BIOSでの設定> :

BIOS 設定メニューの「Advanced」－「Power Management Setup」－「On LAM」が” Disabled” の場合には、“Enabled” に変更する。

**注意:** 機種によってメニューが異なる場合や、BIOS のメニューに項目があってもその機種でサポートされていない場合があります。また、その他に設定が必要になる場合があります。**必ずハードウェア添付のマニュアルを参照してください。**

## ■ 要因

クライアント PC の設定を行っていない。

## ■ 確認事項

クライアント PC 上の電源制御プログラム(PC98-NX シリーズの場合 : Timer-NX)の設定でリモートからの電源投入を許可する指定を行っていますか？

## ■ 確認方法

例 PC98-NX シリーズの Timer-NX の場合 :

「スタート」－「プログラム」－「Timer-NX」で左下にある<リンブ>ボタン(「電話」マーク)を選択しているか確認してください。選択して黄色くなっていない場合にハードウェア添付のマニュアルを参照し、選択を行ってください。

**注意:** Timer-NX 以外で設定する場合や、Timer-NX の設定以外に、BIOS メニューの項目の変更、LAN ドライバの設定等が必要な場合もあります。**必ずハードウェア添付のハードウェア活用ガイドを参照して設定してください。**

## ■ 要因

クライアント PC が Wake on LAN (Remote Power On)をサポートしていない機種である。

## ■ 確認事項

電源投入が行える(Remote Power On, Wake on LAN, Remote Wakeup 対応)機種に対して電源投入を行いましたか？

## ■ 確認方法

PC-98NX (NetFine-NX / Mate NX / VALUESTAR-NX)等のように Remote Power On 機能を

サポートしている機種であるかハードウェア添付のマニュアルやハードウェアのカタログで確認してください。

- NEC PC-9821 シリーズは **Remote Power On** をサポートしていません。
- ノート機の場合など、サスペンドしている場合にのみリモートからの電源 ON が可能な機種があります。

## ■ 要因

OS 上で、LAN 用のデバイスの設定を行っていない。

## ■ 確認事項

クライアント PC で動作している OS を確認します。ACPI で動作している Windows 2000 では電源 OFF からの Remote Power On をサポートしていません。

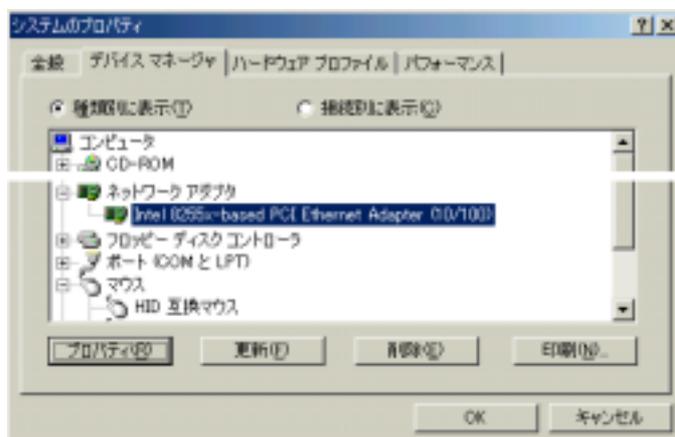
## ■ 確認方法

### Windows ME:

「マイコンピュータ」を右クリックしポップアップメニューを表示します。

ポップアップメニューの「プロパティ」を選択し、「システムのプロパティ」ダイアログを表示します。

「システムのプロパティ」ダイアログで、「ネットワークアダプタ」を選択します。



「コンピュータのスタンバイ解除の管理をこのデバイスで行う」にチェックを行います。



## ■ 要因

電源 OFF 状態からの Wake on LAN (Remote Power On)をサポートしていない OS を利用している。

## ■ 確認事項

クライアント PC で動作している OS を確認します。ACPI で動作している Windows 2000 では電源 OFF からの Remote Power On をサポートしていません。

## ■ 確認方法

クライアントの OS が Windows 2000 か確認する。

注意：ハードウェアメーカーにより、Windows 2000 でも Wake on LAN が可能な場合があります。ハードウェア添付のマニュアルを参照してください。

## ■ 要因

ClientManager のシステム構成が正しくない。

## ■ 確認事項

CM マネージャと CM クライアント間にルータがあり、CM クライアントマシンの同一 LAN 内に中継エージェントが存在しない場合、UDP ブロードキャストプロトコルデータが送信できる設定になっていますか？

## ■ 確認方法

ルータの設定を確認してください。

ダイレクトブロードキャストが許可されていない場合には、ダイレクトブロードキャストの許可を行うか、中継エージェントを設定してください。

## ■ 要因

CM クライアントのバージョンが Ver3.5 以前の場合、CM クライアントの SNMP エージェントの設定が正しくない。

## ■ 確認事項

クライアント OS が Windows 95 / 98 の場合

SNMP 受信を許可されたマネージャ一覧に 127.0.0.1 (自マシン) を追加していますか？

クライアント OS が Windows NT 4.0 の場合

場合で受信制限を設けている場合、SNMP 受信を許可されたマネージャー一覧に 127.0.0.1 (自マシン) を追加していますか？

クライアント OS が Windows 2000 の場合

受信制限を設けている場合、SNMP 受信を許可されたマネージャー一覧に 127.0.0.1 (自マシン) を追加していますか？

## ■ 確認方法

クライアント OS が Windows 95 / 98 の場合

「スタート」－「プログラム」－「アクセサリ」－「システムツール」－「システムポリシーエディタ」で確認してください。

ない場合には追加します。

クライアント OS が Windows NT4.0 の場合

「コントロールパネル」－「ネットワーク」－「サービス」－「SNMP サービス」－「セキュリティ」で確認してください。

ない場合には追加します。

クライアント OS が Windows 2000 の場合

「コントロールパネル」－「ネットワーク」－「管理ツール」－「サービス」－「SNMP」－「セキュリティ」で確認してください。

ない場合には追加します。

## C.1.5 電源投入時キーボードの入力が行えない

電源投入コマンドと CM データビューアあるいは CM 管理ツールから実行し、クライアントマシンの電源が投入してキーボード・マウスの入力ができない場合、以下のことが考えられます。

### ■ 要因

クライアント PC の設定を行っていない。

### ■ 確認事項

BIOS で Wake on LAN のキーボードロックの ON / OFF の選択がある機種では、その設定でロックが OFF の設定になっているか？

### ■ 確認方法

クライアントが PS/2 キーボード/マウスであるモデルの PC-98NX の場合:

BIOS 設定メニューの「セキュリティ(Security)」-[ネットワーク起動時の設定 (Network Boot Setting) ]-「キーボード/マウスロック (Keyboard/Mouse Lock)」-「使用しない (Disabled) / 使用する (Enabled)」を使用しないに設定します。

**注意:** 機種によってメニューが異なる場合や、その他に設定が必要になる場合があります。必ずハードウェア添付のマニュアルを参照してください。

## C.1.6 アラートが通知されない

クライアントの障害がアラートとして CM マネージャに通知されない場合、以下のことが考えられます。

### ■ 要因

通報テーブルの設定が正しくない。

### ■ 確認事項

クライアントの通報テーブルでアラートを通報する指定をしていますか？

### ■ 確認方法

クライアントマシン上の「スタート」－「プログラム」－「ESMPRO\_CM」－「クライアント設定ユーティリティ」を起動し、「通報設定」ボタンを押しアラートの通報状態を確認してください。

### ■ 要因

ClientManager の設定が正しくない。

### ■ 確認事項

ClientManager のクライアント障害監視設定を設定していますか？

### ■ 確認方法

「CM データビューア」あるいは「CM 管理ツール」を起動し、「設定」メニューの「クライアント障害監視設定(性能)」および「クライアント障害監視設定(ハードウェア)」を選択しアラートの通報状態を確認してください。

### ■ 要因

セットアップ時に障害管理を行わない設定にした。

### ■ 確認事項

セットアップ時にアラートマネージャのインストールを選択しましたか？

### ■ 確認方法

ClientManager のインストールディレクトリの下に AlertMan ディレクトリが存在するか確認

してください。

## C.1.7 死活監視が行えない

死活監視が行えない場合、以下のことが考えられます。

### ■ 要因

CM マネージャの設定を行っていない。

### ■ 確認事項

CM マネージャの設定を正しく行っていますか？

### ■ 確認方法

「CM マネージャの設定」－「マネージャオプション設定」において「死活監視」チェックボタンで死活監視を行う指定を行っているか確認してください。

### ■ 要因

CM クライアントの設定を行っていない。

### ■ 確認事項

CM クライアントの設定を正しく行っていますか？

### ■ 確認方法

「CM データビューア」あるいは「CM 管理ツール」を起動し「設定」メニューの「クライアント機能設定」で「クライアントの死活監視を行う」チェックボタンをチェックし死活監視を行う指定を行っているか確認してください。

## C.1.8 CM 管理ツールが起動しない

CM 管理ツールの起動が行えない場合、以下のことが考えられます。

### ■ 要因

ODBC ドライバがインストールされていない。

### ■ 確認事項

ODBC ドライバがインストールされているか？

### ■ 確認方法

Windows 95 / Windows NT 3.5 の場合:

「コントロールパネル」 - 「ODBC」があるか確認する。

## C.1.9 OFF state Alert の設定画面が選択できない

CM データビューアで、OFF state Alert の設定画面がグレー表示となり選択できない。

### ■ 要因

NEC PC98-NX シリーズでない。

### ■ 確認事項

OFF state Alert または OFF state Alert II が利用可能な機種か？

### ■ 確認方法

ハードウェア添付のマニュアルで、OFF state Alert または OFF state Alert II に対応かを確認する。

### ■ 要因

OFF state Alert 対応クライアントに OFF state Alert 設定ツールがインストールされていない。

### ■ 確認事項

OFF state Alert 設定ツールがインストールされているか？

### ■ 確認方法

「プログラム」 - 「DMITool」フォルダに、「OFF state Alert 設定ツール」が存在するかを確認する。  
ない場合には、121Ware(<http://121ware.com>)よりダウンロードを行う。

### ■ 要因

OFF state Alert II 対応クライアントクライアントに OFF state Alert II 設定ツールがインストールされていない。

### ■ 確認事項

CM クライアントに OFF state Alert II 設定ツールがインストールされているか？

### ■ 確認方法

「プログラム」 - 「DMITool」フォルダに、「OFF state Alert II Configuration Tool」が存在するかを確認する。ない場合には、121Ware.com (<http://121ware.com>)よりダウンロードを行う。

## C.1.10 ベンダ定義トラップが表示される。

### ■ 要因

クライアント PC に CM クライアントをインストールした後、「ベンダ定義トラップ」がアラートビューアに表示される。

### ■ 確認事項

ClientManager 3.2/3.3 からのバージョンアップの場合には、この動作は仕様です。

### ■ 設定方法

ClientManagerの通信に利用しているSNMPトラップをアラートビューアに表示させないようにするには、CMマネージャのNVWORKY¥Public¥Trapディレクトリに `user.def` として以下に示す内容のファイルを作成してください。

```
Enterprise: 1.3.6.1.4.1.119.2.2.4.5
GenericCode: 6
SpecificCode: *
Logging: 0
```

## C.1.11 Cold Start トラップ等が表示される

### ■ 要因

クライアント PC に SNMP をインストールした後、「Cold Start」などがアラートビューアに表示される。

### ■ 確認事項

Windows の SNMP が起動する際に、自動的に出します。

### ■ 設定方法

WindowsのSNMPが起動時に通知するSNMPトラップをアラートビューアに表示させないようにするには、CMマネージャのNVWORK¥Public¥Trapディレクトリに **user.def** として以下に示す内容のファイルを作成してください。

```
Enterprise: 1.3.6.1.4.1.311.1.1.3.1.*
GenericCode: 0
SpecificCode: *
Severity: 2
Logging: 0
```

```
Enterprise: 1.3.6.1.4.1.311.1.1.3.1.*
GenericCode: 1
SpecificCode: *
Severity: 2
Logging: 0
```

```
Enterprise: 1.3.6.1.4.1.311.1.1.3.1.*
GenericCode: 2
SpecificCode: *
Severity: 3
Logging: 0
```

```
Enterprise: 1.3.6.1.4.1.311.1.1.3.1.*
GenericCode: 3
SpecificCode: *
Severity: 2
Logging: 0
```

## C.2 インストール時

### C.2.1 データベースの初期化に失敗する

CM マネージャのセットアップ時にデータベースの初期化に失敗する場合、以下のことが考えられます。

#### ■ 要因

ODBC の設定が不正である。

#### ■ 確認事項

ODBC ドライバの設定を「システム DSN」で行っていますか？

DSN: Data Source Name

#### ■ 確認方法

Windows の場合：

[コントロールパネル]-[管理ツール]-[データソース(ODBC)]を選択して ClientManager 用のデータソースの設定が「システム DSN」(「System DSN」)に設定しているか確認してください。

Windows NT 4.0 / Windows の場合:

[コントロールパネル]-[ODBC データソース]を選択して ClientManager 用のデータソースの設定が「システム DSN」(「System DSN」)に設定しているか確認してください。

#### ■ 要因

ODBC の設定が不正である。

#### ■ 確認事項

ODBC ドライバの設定を正しく行っていますか？

#### ■ 確認方法

Windows 2000 の場合:

[コントロールパネル]-[管理ツール]-[データソース(ODBC)]-「システム DSN」で ClientManager に作成したデータソースを選択し、設定内容を確認してください。

Windows NT / Windows の場合:

[コントロールパネル]-[ODBC データソース]-「システム DSN」で ClientManager に作成したデータソースを選択し、設定内容を確認してください。

## ■ 要因

データベースを作成していない。

## ■ 確認事項

DB サーバでデータベースの作成を予め行っていますか？

## ■ 確認方法

SQL Server の場合 :

<スタート>-「プログラム」-「Microsoft SQL Server xxxx」-「SQL Enterprise Manager」を起動し、データベースが存在することを確認してください。

Oracle7,8 の場合 :

<スタート>-「プログラム」-「Oracle Enterprise Manager」-「Instance Manager」を起動しインスタンスが正常に動作している事を確認する。また、<スタート>-「プログラム」-「Oracle Enterprise Manager」-「Storage Manager」をテーブル領域(表領域)があることを確認してください。

Oracle8i の場合 :

<スタート>-「プログラム」-「Oracle - xxxxxxx」-「Database Administration」-「DBA Studio」を起動し、表領域があることを確認してください。

## ■ 要因

ODBC ドライバの選択が正しくない。

## ■ 確認事項

Oracle 7 の場合:

メラント社 ODBC ドライバをインストールして選択しているか。

Oracle 7 / 8 / 8i の場合:

マイクロソフト社の ODBC ドライバを選択していないか。

## ■ 確認方法

Oracle 7 (リリース 7.3)の場合、メラント社(旧 Intersolv 社)の Data Direct ODBC Connect Ver3.1/3.5 が必要となります。ODBC ドライバを正しくインストールしている[コントロールパネル]-[ODBC データソース]-[ODBC ドライバ]または[コントロールパネル]-[管理ツール]-[データソース(ODBC)]-「ODBC ドライバ」タブで確認してください。

Microsoft 社の Oracle 用の ODBC ドライバはご利用になれません。ODBC ドライバを正しく選択しているか[コントロールパネル]-[ODBC データソース]-[システム DSN]タブまたは[コントロールパネル]-[管理ツール]-[データソース(ODBC)]-「システム DSN」タブで確認してください。

## ■ 要因

DB が動作していない。

## ■ 確認事項

DB サーバのサービスが動作していますか？

DB のインスタンスが自動起動になっているか？

## ■ 確認方法

「コントロールパネル」 - 「サービス」で DB サーバのサービスが動作しているか確認してください。サービスが停止している場合は、「イベントビューア」等で停止理由を確認し、障害を除去してください。

## C.2.2 NETINST 運用管理で、〈ユーザ情報更新〉ボタンを押すと、エラーになる

### ■ 要因

ログオンスクリプトの設定に、不整合がある。

### ■ 確認事項

NETINST 運用管理で登録したドメインのユーザに設定されている、ログオンスクリプト名は正しいですか？

### ■ 確認方法

#### Windows NT 4.0 の場合：

ドメインコントローラで、[プログラム]-[管理ツール]-[ドメイン ユーザー マネージャ]を起動し、ユーザープロパティのプロファイルを表示してください。その中の「ログオンスクリプト」に指定してあるファイル名が、正しいことを確認してください。

指定するファイル名は、ドメインコントローラ上で「NETLOGON」という共有名で共有してあるフォルダからの、相対パスでなければなりません。

#### Windows 2000 の場合：

ドメインコントローラで、[プログラム]-[管理ツール]-[コンピュータの管理]を起動し、各ユーザーのプロパティを表示してください。「プロファイル」タブの「ログオンスクリプト」に指定してあるファイル名が、正しいことを確認してください。

### ■ 要因

NETLOGON 共有フォルダがない。

### ■ 確認事項

NETINST 運用管理で登録したドメインのドメインコントローラで、NETLOGON という名前で共有されているフォルダはありますか？

### ■ 確認方法

エクスプローラで、ドメインコントローラ上に「NETLOGON」という名前の共有フォルダが存在することを確認してください。

存在しない場合、ドメインコントローラで、[プログラム]-[管理ツール]-[サーバー マネージャ]を起動し、ドメインコントローラの「ディレクトリの複製」を表示してください。そして、「ログオンスクリプトパス」に表示されているフォルダを、「NETLOGON」という名前で共有してください。さらに、同じフォルダを、「ESMNILOGON」という名前でも共有してください。